

平成30年度「海の作文コンクール」入賞作品

金賞（国土交通省神戸運輸監理部長賞） 1点

「世界中とつながる海」

西宮市立南甲子園小学校3年 大恵 貴子

海の向こうには、何があるのかワクワクします。海を見ながら、私はフィリピンのことを考えます。

私は毎日、フィリピンの人と話をします。インターネットで英語のべん強をするためにフィリピン人の先生と会話をします。フィリピンは、日本より南にある日本と同じ島国です。私は外国に行ったことがありません。もちろん、フィリピンにも行ったことがありません。フィリピン人の先生と話すうちに、行ってみたいと思いました。そして、フィリピンの海はきれいだと聞いたので、見てみたくなりました。

私の家の近くには甲子園はまがあります。小さなカニやボラがいて、家族でよく、はまに遊びに行きます。

私は海を見て、この海の向こうにはフィリピンがあつて、海でつながっていることが、ふ思ぎだなと思いました。

きれいなフィリピンの海。でも、甲子園はまの海は、きれいとはいえません。はまにはたくさんのゴミが落ちています。

プラスチックやビニールぶくろ、はっぼうスチロールがたくさん流れつきます。台風のあとにはまに行くと、はまは、たくさんのゴミでおおわれていました。もしかすると、このゴミはフィリピンにも流れつくかもしれません。そうすると、フィリピンの人もこまるだろうなと思いました。

私は1年に2～3度は、はまのそうじに、さんかをしています。私が、ゴミをひろうことで、はまや海がきれいになります。そして海でつながるほかの国もきれいになると思います。世界中が海でつながっています。きれいな海を守るためにも、海をよごさないようにしないとイケません。

私にできることは、ゴミはきちんとゴミばこにすてる。そしてリサイクルできる物は、リサイクルに出して、ゴミをできるだけへらすことだと思います。
海がゴミでうめつくされないように、一人一人のど力が、ひつようだと思います。
いつか海の向こうの国、フィリピンに行ってきれいな海を見てみたいです。

銀賞（神戸海事広報協会会長賞） 3点

「じいやのおしごと」

淡路市立学習小学校1年 いわき ゆうま

ぼくのじいやは、さかなをとる、りょうしをしています。
なつやすみも、じいやのふねにあそびにいきました。ぼくは、ふねにのるのを、たのしみにしていました。

じいやは、あさの3じにおきて、さかなをとりにおきへでます。
ふねからあみをながしながら、さかなをとっています。
とったさかなをわけながら、いけすにいれます。

みなとへもどってきて、さかなをうるじゅんぴをします。
さかなをすくうあみでさかなをとって、はこにいれてさかなをうります。
そのときのさかなは、はこのなかで、あばれていました。ぼくは、さかながかわいそうにおもいました。

ぼくもたこをあみでとりました。てでさわったら、べとべとしました。
たこのきゅうばんにさわると、はさまれていたかったです。たこのきゅうばんが、あれほどつよいとはおもわなかったです。
めたもとりました。たことめたをおみやげにもらいました。

そのあと、みんなでふねにのって、うみのどらいぶへいきました。
ぼくは、ふねからおちないか、しんぱいでした。ちよつとこわくてしゃがみました。
でもかぜがきもちよくて、たのしかったです。またじいやのふねにのって、どらいぶをしたいとおもいました。

「おじいちゃんの船に乗って」

高砂市立米田小学校 5年 沼田 姫華

私のおじいちゃんは、兵庫県の北部にある香美町で、漁しをしています。家が民宿で、おじいちゃんがとった魚をおばあちゃんが料理して、お客さんに出しています。

私は、夏休みに、おじいちゃん、おばあちゃんの家に行きました。いとこたちでおじいちゃんに、「船に乗りたい!」とお願いしました。そして、おじいちゃんの船に乗せてもらいました。

港に行くと、船が十せきほどあり、フナムシがたくさんいました。船に乗る前に、ライフジャケットを着ました。ライフジャケットは、水におぼれないようにつける救命用具だそうです、笛もついていました。

船が出発しました。一番年下の三才のいところが海に落ちないように支えてあげました。船から海を見てみると、水平線が一直線にのびていて、とてもきれいでした。海は広いなど改めて思いました。あと、海がすき通っていました。私は、もっと自然を大切にしたいなど思いました。

そして、しばらく進むと、どうくつがありました。三才のいところは、最初はうれしそうだったけれど、無表情になっていました。初めてで、少しこわかったのかもしれない。どうくつは、あぶないので入らなかったけれど、中がどうなっているのかを考えるとワクワクして、とても楽しかったです。

船は、スピードが速くなりました。水しぶきが、パシャパシャかかり、冷たくて気持ち良かったです。後ろをふり返ると、波が追いかけてくるようになっていて、とてもおもしろかったです。私は、乗り物によいやすいです。だから、船でもよいます。だけど今回は、いともたくさんいたし、とてもおもしろかったので、全然平気でした。次は、おじいちゃんにお願いして、魚つりをやらせてもらいたいと思います。

大きな海は、小さななやみを、わすれさせてくれます。そんな海が、私は大好きです。日本海でとれる冬のカニは、最高においしいので、冬休みにおばあちゃんの民宿に食べに行きます。来年もまたみんなで、おじいちゃんの船に乗りたいです。

「高砂海浜公園のアオサについて」

高砂市立米田小学校 5年 保田 紗希

私は、二年生の時に、高砂海浜公園で見つけた貝がらの標本を、作りました。色々な辞典をかりて、貝の名前を調べると、場所や、気候からアサリ、ハマグリ、ツメタガイ、イボニシ、アカニシ、ウミニナ、ムシロガイ、サルボオ、マガキ、ツキガイモドキだとわかりました。あまり記憶にないけど久しぶりに行った浜辺には、二年生の時よりもアオサは増えているような気がしました。

昔、高砂の海岸は、潮干狩りができる遠浅の砂浜だったようです。今ではうめ立てられて、大きな工場が立ち並び、海で遊ぶことがむずかしくなっていました。

高砂海浜公園ができ、人工の砂浜ですが、海にふれることができるようになりました。その砂浜で、アオサが発生するようになったようです。

なぜアオサが発生しているのかというと、海そうの一種であるアオサは、太陽の光を浴びると、どんどん増えていき、根っこがちぎれても太陽の光があれば、大きくなり続ける生命力があるからです。水温が上がれば成長のスピードも早くなります。強い潮の流れがあれば、アオサもどこかへ流れ、海の生き物のえさになるのですが、高砂海浜公園は、人工の砂浜で入り組んだ形をしていて、アオサをためこんでしまっています。

そのため、アオサが大量発生してたまり、陸に打ちあがるので、問題が起きています。砂浜にアオサがたまると、その下にいるさまざまな生き物たちは、酸欠で死んでしまい、たまったアオサは腐敗するときに、どくとくにおいがします。

これを解決するには、アオサをとるしかないのです。そのため、毎年、海辺をそうじする活動をしているそうですが、私は参加した事はありません。高砂でただひとつ、海にふれることのできる砂浜で、ここには小さな巻貝のウミニナがたくさん生息しています。海の水も、昔に比べてきれいになったようで、松林のあるきれいな公園です。これは、高砂海浜公園だけでなく、同じような砂浜で同じような問題が起こっています。

自分たちが住む街の砂浜が、これからもたくさんの人が集まり、たくさんの生き物が住めるような所になるよう、努力していかないといけないなと思いました。

銅賞（神戸海事広報協会会長賞） 6点

「海でシュノーケリング」

高砂市立米田小学校3年 今立 逸稀

ぼくは夏休みに鳥取の海に行きました。そこでシュノーケリングをしました。海はとてもきれいで、すき通っていました。

ぼくは、ライフジャケットをきて、シュノーケルマスクをつけて泳ぎました。妹もいっしょにしました。海の中にはいろいろな魚がいて、その中で黒と黄色のしまがある魚が、ぼくは一番気に入っておいかけました。ライフジャケットをきていると、ふかい所もういていられるので、すごく楽でした。

ぼくたちが泳いでいたら、とつぜんけいほうが、鳴りひびきました。10さいの男子が行方不明という、ないようでした。ぼくたちは、早くみつかるといいなと思っていましたが、そのうちけいさつも来て、そのあとレスキューたいも来ました。ほうそうで「みなさん海からあがって下さい。」といわれ、泳いでいたたくさんの人が、いっせいに、きしにあがりました。

船もでてきて、小がたのひこうきも、海の上をとんでいました。ぼくは、ドキドキしました。ぼくのお父さんとお母さんもすごくしんぱいそうにしていました。しばらくした後に、男の子が見つかったというほうそうがあり、ぼくたちはほっとしました。そしてみんなで遊びはじめました。

ぼくは今まで、海に何回かいったことはあるけど、このようなことは、はじめてでした。テレビのニュースで海や川の事をみていたけど、本当にあるんだと思いました。海は泳いだり、魚を見たりして、とても楽しい所だけど、おぼれたり、まい子になったりすることが、本当にあることをしりました。

海で遊んだあと、おんせんに行きました。ひやけをしていて、はだがぴりぴりしました。そのおんせんのまどから、夕日がしずむのをお父さんと見ていました。夕日は、思っていたよりも早くしずみました。

少しドキドキしたけど、また家族でシュノーケリングをしたいと思います。

「いわい島の海」

高砂市立米田小学校 3年 大内 蒼太

ぼくは毎年夏休みになると、山口けんの、せと内海にうかぶ小さな島、いわい島に帰ります。

いわい島に行くには、船にのります。その船は、フェリーみたいに大きくありません。のれる人数は、百人位の小さな船で、三十分でいわい島につきます。

いわい島は、とてもとてもきれいな海にかこまれています。ぼくはそこで毎年魚つりをしたり、海で泳いだりします。去年ぼくは、ハムやソーセージをエサにして、魚つりをしてみました。さいしょは、そんなエサでつれるのかなと思ったけど、フグの赤ちゃんがいっぱいつれました。

ぼくは、ハムとソーセージでつれるなんてびっくりしました。つれてうれしかったけど、あまりに小さかったからかわいそうだったので、海にかえしてあげました。その魚がおおきくなるといいなと思いました。

いわい島には、ゲームセンターや公園がありません。だから海に泳ぎに行きます。さいしょは、こわくてぜんぜん泳げなかったけど、親せきのお姉ちゃんが、とっくんしてくれて、高いところから海にとびこめるようになったり、少しだけ泳げるようにもなりました。こわかったけど、がんばって練習してよかったなと思いました。

海はプールとちがって、だんだんとふかくなっていったり、遠くの方に大きな船が通ると、少し時間がたってから波が来ます。今はあまり泳げないから、波が来るとこわいです。もっともっと練習して、波が来てもこわがらずに、プカプカういて楽しめるようになりたいです。

ぼくは、赤ちゃんのころから帰っている、このいわい島の海が、大好きです。このきれいな海が、ずっときれいなままであってほしいと思いました。そのためにぼくは、何ができるか考えてみました。ぼくは、海にゴミをすてないようにしようと思いました。もっとたくさんの方が気をつけたら、すごくきれいな海を守れると思いました。

「船を学ぶ」

神戸市立多井畑小学校3年 岡田 悠平

学校から海技大学校まで行くときに、バスに乗っていると外に海が見えて、きらきら光っていて、とてもきれかったです。

海技大学校につくと、門に大きなプロペラがあったので、ぼくは「でかっ。」と、言いました。すごく大きかったので、本当にびっくりしました。中に入ると、すごく広がりました。

ぼくは、Cチームでさいしょに行った操船シミュレーターで船長になりました。ぼくが、「ミジップ」といったら「ミジップ、サー。」と言う声がかえってきたので、うれしかったです。ぼくたちが乗ったのは、原油タンカーだったのでぶつからないように運転するのは、すごくこわかったです。でも後は、船を一周、回転するだけのところで終わってしまったので、もう少し時間があればよかったのと思いました。

次に行ったところは、エンジンルームです。ぼくは、エンジンのコントローラーを動かしました。ボタンがいっぱいあって、本当の船を動かすときは、大じょうぶなのかなあと、思いました。

最後に行った船は、客船だったので、ゆっくり見られました。明るい時と、くもりの時と、雨の時と夜の時のえいぞうを見て、明石海きょう大橋の近くを動いていました。夜の時と、雨の時は、大じょうぶかなあとと思って聞いてみると、「夜の時も、雨の時も、ちゃんと動けるよ」と言って、教えてくれたので、ぼくはとてもびっくりしました。

次に、行ったのが宮ざきカーフェリーです。少しこわかったです。すごかったのは、自動車が何台も入って、中にはレストランやお風呂、ベッドがあって、他にもいろいろありました。

ふく田さんが、「何でせんすいかんみたいに海にもぐらないの」と言ったら、船の人は、「さいしょは海をもぐっていたけれど、お金がかかったからやめたらしいよ」と言ってくれました。

船の外に行くと、高くてすごくこわかったです。運転する所に行くと、すごく暑かったです。校外学習で船を学んで、すごくべんきょうになりました。

後、ぼくのお母さんが作ってくれたおべんとうが、おいしかったです。また、行きたいです。

「海はおどろきいっぱい」

明石市立江井島小学校3年 橘 咲希

わたしは、お父さんが船に乗ってりょうに行くときがあるので、夕方行くときについていったら、たこがとれました。でも小さかったです。小さかったら海にもどして、大きくなるまでまつと、していました。今年はたこが少ないので、たいせつにたべたいとおもいます。

三年生のそう合で、たこめしをつくったときびっくりしたのが、たこを切るとき、上はきょうりよくがいらなかったけど、下はきょうりよくがいました。でも、食べたときには、下がやわらかくて、上がかたかったので、びっくりしました。でもそのときは、チームワークがあったのでできました。

ほんとのほんとにおどろいたのが、たこはきゅうぼんで、オス、メスがわかるといわれて、どうやってと、思ったけど、いがいとかんたんでした。きゅうぼんが、ピシッとそろっているのがメス、バラバラがオス。わたしは、このたこのせいべつの見分け方をしらなかったけど、干したこをするとき、りょうしさんが教えてくれました。そんなちょっとしたことで分かるとしりました。いがいです。たこはめったにたべないけど、たべるきかいがあったら、そのたこは、オスカメスか、みてみたいです。

あと、もう一つあります。海のあさいところに、クラゲの死体があります。これはもうふしぎに思いすぎて、びっくりしています。上の部分だけやったり、下の部分があったり、全部あったりします。とくに、下の部分と上の部分がどうやってちぎれるのかが、ふしぎです。死んだくらげの上はどくがないから、さわってみると、プニプニできもちよかったです。

このように海には、おどろきがいっぱいあることが分かりました。これからもおどろきをみつけていって、海のことを全部して、名人になってみたいです。おどろきがいっぱいな、明石の海、わたしたち明石のじまんです。

「海のいいところ・わるいところ」

明石市立江井島小学校 3年 土谷 咲希

わたしは、しょうじき海がにがてです。

小さいころに、海へ行ったことはありましたが、もしサメがいて、食べられてしまったらどうしようと、こわい想ぞうがわいて、海がにがてになり、あまり好きじゃなくなったからです。

ですが、3年生のそう合の学習で、海のことをくわしくべん強したら、前よりは海が少し好きになりました。理由は、そう合の学習で海の方へ行き、貝やかになどのいろいろな生物をつかまえたりして、海にはこんなにたくさんのいろいろな生物がいるんだなど分かったからです。

また、生のたこを切ってほして、ほしだこを作ったり、ほしだこでたこめしを作ったりしたのも、海が好きになった一つのことだと思います。ほしだこを作るときに、はんの人といっしょにたこを切ったりしていましたが、はじめはそのたこが気持ち悪くて、たこの頭がさわれませんでした。でもなれると、たこの頭はさわれなかったけど、たこの足はかんたんにさわれるようになりました。

たこのきゅうばんが、手にくっついたりして、なかなかはずれなくて、明石のたこは、こんなに強いのだなと思いました。

たこめしでは、たこの足や頭を使つてりょう理をしました。

たこを切る作業の時、なかなか切りにくく、けっこう大へんでした。

たこをもむとき、何回ももんで、こちらもけっこう大へんでした。

たこめしができあがって、食べるとたこがかたくて時間がかかったけど、わたしたちがいっしょうけんめい作ったので、たこはかたかったけど、とてもおいしかったです。

わたしは、海にはこんなにいいところがあるんだなど、分かりましたし、前よりも海が好きになりましたが、海には少しこわいところもあります。

たとえば、台風で高しおがおきて、たくさんの人たちの命をうばったり、つなみで家をながしたりしています。ときには、わたしたち人間が海にゴミなどをながして、海をきたなくする場合もあり、海と人とのつき合い方を考えないといけないこともたくさんあります。

わたしは、海がきれいになるように、ゴミはもってかえり、海にはゴミなどをながさないようにし、海がとてもきれいになったらいいなと思います。
これからもふるさとの明石の海を大切にしたいです。

「海とわたし」

明石市立江井島小学校3年 西本 実羽

私は泳ぐのが苦手です。

はじめて海に入った時に、海の深い所へいっておぼれそうになって、鼻がいたくなって海がこわくなったので、海はあまり好きではありませんでした。

1, 2年生の時とちがって3年生になって、海は昔は好きじゃなかったけど、今はいろんなことを知れて、前よりもすごく好きになりました。

そのわけは、3年生の総合で海のことを、くわしくべんきょうしたからです。そのべんきょうした中で、いろんなことを知りました。その中で一番おどろいたのが、たこのたまごの中に、たこの赤ちゃんが1千万こぐらい入っているのを、はじめて知りました。

総合でわたしは、海の中で一番きれいなのは、たこでした。その時に干しだこ作りがあって、わたしはちょっとま、たこをさわれなくて、がんばってさわったら、すごく気持ちよくて、きゅうばんの所がひっついておもしろかったので、わたしはきれいだったたこを、少し好きになりました。

またどこかでたこが出たら、のこさず食べたいです。

次におどろいたのが、明石の海には、いろんなしゅるいの魚が、かぞえきれないほどいるのをはじめて知りました。

1, 2年の時は、海の生物は魚、たこ、カニぐらいしかいないと思っていたけど、3年になって海の生物はいろんなのがあって、いろんなしゅるいがあることを、はじめて知りました。

さいごに、私がおどろいたのが、海はどの国にもつながっていて、日本と外国はなかよくしていることです。たとえば、日本にはいろんな船がやってきて食料を売ったりして、でも日本は外国に車を売っていることも知りました。

海のことをべんきょうしている中で、いくつか問題点も知りました。たとえば、だれかが海にビニールぶくろや紙くずを、すてていることもあります。

このように、海には宝物がいっぱいあります。だけど、その海をよごす人がいたら海のいい所が消えてしまいます。

だから、私はこれから海にごみをすてていたら、注意をしたいです。